

基準 4. 自己点検・評価

4-1 自己点検・評価の適切性

《4-1 の視点》

4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

(1) 4-1 の自己判定

「基準項目 4-1 を満たしている。」

(2) 4-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

本学は、建学の精神として掲げている「敬和・温順・質実」の精神に基づき、基準 1 で示した大学の使命・目的に沿って、教育・研究及びその管理運営ならびに事務支援の各分野についての点検を継続的に行なっている。特に、本学の教育方針及び教育目的に掲げている「地域社会の要望に貢献する人間を養成する」ことを重視し、大学独自の評価基準として「地域社会との連携」を設定している。

本学では、平成 19(2007)年度以降、「関東学園大学自己点検・評価及び認証評価規程」及び「関東学園大学自己点検・評価実施組織規程」に即して、「基本構想検討会」の下、「全学自己点検・評価実施委員会」が中心となり自己点検・評価を実施している。基本構想検討会は、主に、自己点検・評価の実施組織等の体制、自己点検・評価の体系(視点・分野・項目)の設定、自己点検・評価の重点分野の設定、自己点検・評価の実施についての実施周期及び年次計画などについての基本構想を策定している。また、全学自己点検・評価実施委員会は、主に、全学的に共通な自己点検・評価のための点検・評価の視点・項目と必要な細目の決定及び自己点検・評価の実施スケジュールの明示を実施するとともに、円滑な自己点検・評価実施のための関連する各部署との相談・指導・調整を行なっている。

本学は、平成 22(2010)年度に財団法人日本高等教育評価機構の認証評価を受けて以降、いわゆる全学的な自己評価報告書の作成実施には至っておらず、全学自己点検・評価実施委員会による全学的な自己点検・評価活動は十分とはいえない状況である。ただし、本学における広義の自己点検活動は、各種の委員会を中心として継続的に行なわれている。例えば、授業内容の向上・改善を目的とした授業評価アンケートは、FD 推進委員会が中心となって行なっており、また、コース体制の充実と向上を目的とした点検・評価活動は、主に各コースのコースミーティング及びコース長会議において実施されている。さらに、本学の募集活動の状況、各コースの学習到達度の状況、本学学生の就職活動の状況、経営財務の状況などについては、毎年春と夏に開催している全学会議において報告され、全教職員による本学の状況についての情報共有が図られている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-1-1】 関東学園大学自己点検・評価及び認証評価規程

【資料 4-1-2】 関東学園大学自己点検・評価実施組織規程

【資料 4-1-3】 学務分掌

【資料 4-1-4】 自己点検・評価実施委員会開催状況一覧

【資料 4-1-5】全学会議開催状況一覧

(3) 4-1 の改善・向上方策（将来計画）

上述のように、本学の自己点検活動は、主に各種の委員会が中心となり実施されている。今後は、こうした個々の自己点検活動の結果が、全学的な自己評価報告書の作成へと統合されるよう、制度の構築と運用を進めることを方針とする。そのため、主に全学的な自己評価報告書作成の適切な周期や、より機能的な「全学自己点検・評価実施委員会」となるようなメンバー構成などについての検討を行なっていく。

4-2 自己点検・評価の誠実性

《4-2 の視点》

- 4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価
- 4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析
- 4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

(1) 4-2 の自己判定

「基準項目 4-2 を満たしている。」

(2) 4-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

本学では、エビデンスに基づいた自己点検・評価に努めており、特に、平成 22(2010)年度以降は、日本高等教育評価機構の評価基準及び評価項目に即した自己点検・評価を行なっている。本学では、法人事務局及び大学の関連する各部署が大学の基本データの収集・蓄積を行なっており、これらの基本データにより編集されるエビデンス集(データ編)に基づいた自己点検・評価活動を実施している。また、本学は、4-1 で述べた授業評価アンケートの他にも、各種のガイダンス、オープンキャンパス等の機会でのアンケート調査・分析を行なっており、本学をとりまく状況を適切に把握することに努めている。授業評価アンケートについては、FD 推進委員会等が中心となって実施しており、アンケートの調査結果については、FD 委員会等で精査した上で、学長主催会議、教授会への報告を経て各教員にフィードバックされ、各教員は、担当科目の授業内容及び授業運営の改善に向けた指標として活用している。

平成 15(2003)年 11 月に作成した「関東学園大学の現状と課題」(関東学園大学自己点検評価報告書)、平成 22(2010)年に作成した「自己評価報告書・本編」は、本学ホームページで公開している。平成 22(2010)年作成の「自己評価報告書・本編」については、本学全教職員に印刷体で配布することで、内容についての学内共有を図った。また、各種のアンケート調査の結果については、平成 20(2008)年度からは授業アンケート調査の結果をホームページ上でも公開し、学生や教職員はもとより、広く学外へも積極的に公表している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-2-1】 関東学園大学の現状と課題(関東学園大学自己点検・評価報告書)

【資料 4-2-2】 平成 22 年度 自己評価報告書・本編

【資料 4-2-3】 関東学園大学ホームページ

(3) 4-2 の改善・向上方策（将来計画）

自己点検・評価結果の学内共有と社会への公表については、これまでの活動の維持と充実を目指していく。

本学の自己点検・評価は、エビデンスに基づいており、透明性が確保されている評価となるため、その活動の基礎となる基本データの収集・蓄積については、これまで通り、法人事務局及び大学の関連各部署による実施を継続させていく。

本学は、これまでも継続的にまたは必要に応じた各種のアンケート調査を実施し、教育目的の達成状況を点検・評価するための努力を行ってきた。今後も、従来の取り組みを継続し、アンケート調査等を実施していく方針である。さらに、アンケート調査等から得られた結果についての検討を、教務委員会やFD推進委員会等を中心に行ない、必要に応じて、教育目的の達成に向けた改善策を講じていくことに努めていく。

4-3 自己点検・評価の有効性

《4-3 の視点》

4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のための PDCA サイクルの仕組みの確立と機能性

(1) 4-3 の自己判定

「基準項目 4-3 を満たしている。」

(2) 4-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-1 に述べたように、本学は平成 19(2007)年度以降、「全学自己点検・評価実施委員会」が中心となり自己点検・評価を実施しており、平成 22(2010)年度には、財団法人日本高等教育評価機構の認証評価を受審し、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」との認定を受けた。平成 22(2010)年度の受審にあたり作成した自己点検評価報告書については、その評価報告の結果を学内で共有、大学の関連各部署による対応がなされており、PDCA サイクルによって自己点検・評価の結果が活用されている。また、本学の日常的な自己点検・評価活動は、4-1 で述べたように、各種の委員会を中心として継続的に行なわれている。各委員会では、概ね月に 1 回のペースで、例えば、募集活動の状況、学生の履修・資格取得の状況、学生の就職活動の状況などの客観的なデータに基づいた目標達成状況の確認と、必要な措置の検討と実行といった活動を行なっている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-3-1】 自己点検・評価実施委員会開催状況一覧

【資料 4-3-2】 平成 22 年度 自己評価報告書・本編

【資料 4-3-3】 学務分掌

【資料 4-3-4】 学内委員会開催状況一覧

(3) 4-3 の改善・向上方策（将来計画）

本学では、自己点検評価報告書の内容とその評価結果は学内で十分に共有されており、また、改善が必要な事項等については学内の関連する各部署が対応しているため、自己点検・評価の結果の活用のための PCDA サイクルは概ね確立されていると判断される。ただし、その PDCA サイクル運用の周期や機能については、さらに向上させていく方針である。

4-1 で述べたように、本学では、学内における様々な個別的事項についての自己点検・評価と対応は、主に各種の委員会が中心となって継続的に実行している。今後は、こうした個々の活動の結果を、全学的な自己点検・評価へと統合する制度の構築を行ない運用を改善する方針である。そのため、全学的な自己評価報告書作成や PDCA サイクル実行についての適切な周期、「全学自己点検・評価実施委員会」のメンバー構成等についての検討・改善を行なっていく。

[基準 4 の自己評価]

本学における自己点検・評価は、「関東学園大学自己点検・評価及び認証評価規程」及び「関東学園大学自己点検・評価実施組織規程」に基づき、「全学自己点検・評価実施委員会」を中心として、各委員会等の関連部署によって実施されてきた。

自主性・自律性に基づく本学の体制は適切であり、自己点検・評価の適切性は保持されている。また、自己点検・評価の誠実性については、各種アンケート調査の結果などを含む信頼性の高いデータとエビデンスに基づいた自己点検・評価を行なっており、適切な情報公開と学内における自己点検・評価結果の共有がなされており、誠実性を満たしていると評価できる。自己点検・評価結果を活用するための PDCA サイクルが機能していることにより、その有効性が適切であると評価される。